

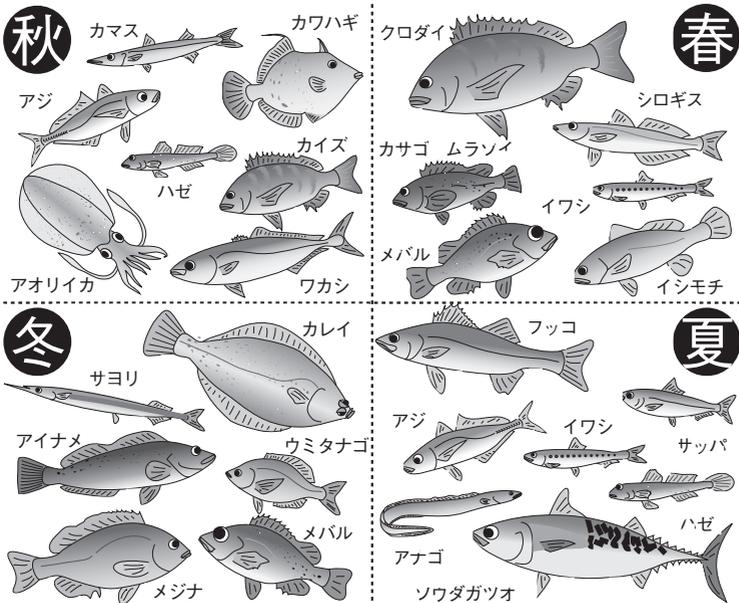
第1章

初デビュー編

明日にでも釣りに行きたい人への超即レファレンス



【防波堤で釣れる四季のターゲットたち】



まずは、春か秋の防波堤に出かけてみよう！

春と秋は防波堤が活況を呈するシーズン。釣れる魚種も豊富だし、匂を迎える魚も多い。初めて防波堤釣りを楽しむなら、ぜひ、この季節に出かけることをオススメする。夏の炎天下や冬の北風の中でも釣りはできるが、暑さ寒さも柔らかなこの季節なら、潮風を感じているだけでも満足感を得られる人は多いだろう

ズバリ、防波堤ではオフシーズンがなく、一年中釣りを楽しむことが可能だ。実際、厳冬期である1〜2月でも、カレイやメバル、アイナメなどはよく釣れるし、サヨリやメジナなら爆釣の可能性もあるくらいだ。

しかし、だれもが一番釣りやすい季節ということ考えると、やっぱり、多くの魚たちが産卵のために接岸してくる3〜6月の「乗っ込み期」、そして、冬に備えてエサを飽食する9〜11月の「荒食い期」の釣行がベストだろう。この時期なら、空気もすがすがしくて快適に釣りを楽しめるし、Q1でご紹介した魚の活性もピークを迎えているので、ビギナーにとっても最高に釣りやすいはずだ。

ちなみに、私が大好きで一番期待度を持っているのは、3月後半から4月初旬にかけて。この時期は、魚種に関係なく何度も爆発的な釣りをした経験があるのだ。

Q2

防波堤釣りに最適の「季節」はいつ？
一年中、楽しめるのかな……

A 防波堤釣りは一年中楽しめる。とくに、春と秋は大釣りのチャンスだ！



だれでも簡単に釣れるターゲット・ベスト6

qアジ/食卓でもお馴染みの超人気魚。ウキ釣りやサビキ釣りなどで狙う。wシロギス/見た目に格好よく、引き味、食味とも申し分なしの好ターゲット。投げ釣りやチョイ投げで。eイワシ・サッパ/サビキ釣りの代表的なターゲット。全国的にどこの釣り場でも魚影が濃いのがウレシイ。eメバル/ノベ竿でのフカセ釣りなどで狙う。最近では釣れるサイズが小さくなってきたが、やっぱり手軽に狙える根魚として人気。食べても美味だ。eメジナ/ウキ釣りでの人気ターゲット。30cm以上の大物は手強いが、小メジナなら魚影も濃くて簡単に釣れる。yハゼ/いわずと知れた大衆魚。だれでも簡単に釣れて、しかも、食べておいしい

防波堤で釣れる魚は、じつに多彩でそれぞれが人気者でもある。

なかでも釣りやすいターゲットといえば、アジやイワシ、シロギス、ハゼ、メジナなど。これらに共通しているのは、どこの釣り場にも普通に見られて、しかも魚影が濃いことだ。絶対数の多い魚なら、ビギナーでも釣れる確率が高くなるというもの。しかも、個人の技量によって好みの釣り方を楽しめるから、ベテランにとってもうれしいターゲットだったりするのだ。もちろん、こういった大衆魚は食べても間違いなくおいしいから、帰宅後にも大きな楽しみが待っているのである。

これらの魚たちを相手にして、だんだん釣りに慣れてきたら、クロダイやカレイ、ソウダガツオ、アオリイカなども狙ってみよう。釣りの幅も広がって、最高に楽しめること間違いなしだ。まさに、防波堤は魚にとってもパラダイス、ターゲットは無敵なのである。

Q1

初めて防波堤に行くんですけど、どんな魚が一番釣りやすいですか？

A 防波堤での人気者は、食味も抜群の大衆魚たち。釣り方も簡単ですよ！



防波堤釣りで快適なウエアはコレだ！

q 夏は半袖シャツにビーサンが快適だが、日中の強烈な紫外線を防ぐ意味で長袖シャツも用意しておきたい。w アウターは、保温性と防風性に優れたものを重ね着すると体温調整しやすい。e アンダーウエアは、夏はポリプロピレンなどの速乾性のもの、冬はポリエステルやアクリルなどの保温素材を使ったものが快適。r 防波堤ではスニーカーが一番快適だが（夏はスポーツサンダルもOK）、堤防の上が濡れているときはラジアルブーツやフェルトスパイク底のニーブーツが滑りにくい。t つばのある帽子や偏光グラスは、日差しを遮るとともに水中を見やすくしてくれる。y 子連れのときは、キッズ用のライフジャケットも用意したい

最近、ファッション的なウエアで釣りを楽しむ人が増えてきた。上から下までカタログから飛び出してきただような人もいるが、快適さを重視で選んだ服なら、それもまたよしだ。では、釣り場で快適なウエアって何だろうか？ 手軽に出掛けられる防波堤でも、そこはやっぱり自然と対峙するフィールド。体の動きを妨げないことはもちろん、雨風や冷気、日差しなどから身を守ってくれることが第一だ。基本的には長袖、長ズボンのスタイルで、キャンプで着るようなアウトドア用のウエアならOKだ。そして、寒い時期には、これに防風性や防水性を兼ね備えたウエアを重ね着していく。中間着はフリース、アウターはゴアテックスなどの透湿素材を使った防寒着が快適だ。細かいことだが、アウターは汚れにくく、釣りバリエーションに汚れにくい素材を使っていることも、意外と重要なチェック事項だ。

Q4 釣り場での服装はどうすればいい？ 専用のウエアってあるのかな？

A 日ざしや寒気を遮り、動きやすさと安全性を兼ね備えたスタイルが快適。

釣りに出かけるまでの正しいダンドリ

2 場所とターゲットを決める

集めた情報を吟味して、自分が釣りたい魚や行ってみたい釣り場をいくつか絞り込んでみる。このとき、釣り場ガイドやフィッシングマップなどがあると便利。もちろん、特定のターゲットを決めずに、五目狙いでいくのもアリだ。



4 潮時を調べる

釣行日を決めたら、潮見表でその日の時合い（釣れる時間帯）を調べる。具体的には、満潮前後の潮が動いている時間帯がチャンスとされているので、その2時間ぐらい前には現地に着けるようなスケジュールを立てておこう。

5 タックル類の準備

集めた情報をもとに、必要なタックルや仕掛け類を用意する。最初は何を持っていくか悩むと思うが、本書を読破すれば的確に選べるようになるだろう。



1 まずは、情報を集めよう！

釣りに出かけるときには、まず、どこでどんな魚が釣れているかを調べるのが先決だ。釣り雑誌や新聞などには、最近の釣況や釣り場までのアクセスのほか、地元釣具屋の連絡先も載っているから、直接電話してナマ情報を聞き出すこともできる。また、都市部の釣具店でも幅広い情報を集めているし、インターネットも大活躍してくれるだろう。

3 釣行日を決める

本来なら、潮まわりを考慮して釣れそうな日に出かけたいが、あまりデータに縛られるのもつまらないし、第一、サラリーマンは自分の好き勝手に休むわけにもいかない。私の経験では潮まわりが悪いときでも爆釣することも少なくないから、自分や同行者の都合で釣行日を決めよう。



6 直前情報のチェック

前日にチェックしたいのが天気予報。雨や風波の中で爆釣することは多いが、やっぱり最初は晴天・微風時での釣りが快適なのだ。また、海の釣況はめまぐるしく変化するので、できるだけ地元釣具店に最新情報を聞いておきたい。

Q3 実際に釣りに出かけるときは、どうやって計画を立てればいい？

A 釣行前のダンドリは、釣果を大きく左右する。賢い計画と準備を！

釣りに出かける前日というのは、何歳になってもドキドキするものだ。どうせ出かけるならキツリと結果を出し、あわよくば大漁を！と願うのは誰しも同じ想いだろう。そして、そのためにも大切になってくるのが、用意周到な計画と準備なのだ。実際のダンドリについては上のチャートを参考にさせていただくとして、釣果を左右する一番の要因になりやすいのが、その日のベストタイムに釣り糸を垂らしているかどうかだ。どんなに好調な釣り場でも、魚が釣れる時間帯というのはだいたい決まっています、具体的には潮の動いているときにチャンスになりやすい。逆にいえば、この時間帯をフルに釣れる計画を立てておくのが、もっとも期待度が高まるのである。もちろん、使用する仕掛けやエサも釣果を決める重要なファクターなので、釣具店に教えてもらうなどして完璧に準備しておきたい。



「海釣り公園」は超オススメのパラダイスなのだ

「海釣り公園」というのは、湾港などの岸壁や棧橋に安全柵を設けて釣り人に開放している場所だ。その多くは地元自治体が管理しており、300～800円ほどの入園料を支払えば1日釣りを楽しむことができる。基本的に潮通しのいい場所にあつて、しかも、随所に人工漁礁が沈められているから魚影の濃さも超一級なのだ。唯一の欠点は、週末に混雑しやすいことか……

釣り具売り場や軽食コーナーも充実しているぞ！

海釣り公園では、簡単な仕掛けやエサの売店、タックルのレンタル所、軽食コーナーなども充実しているから、場所によっては手ぶらで遊びに行くことだってできる。もちろん、休憩所やトイレも完備しているので、家族連れやカップルにも人気なのだ



釣れる魚種もアジやイワシなどの小物系から、クロダイやフッコ、アイナメなど盛りだくさん。また、海釣り公園に来ているのは、家族連れやカップル、グループなどが大半で、横暴な釣り人が少ないのもいい。海釣り公園は、ビギナーにとって最高のパラダイスだったのである。

Q6

「海釣り公園」ってどんなところ？
本当に釣れるのかなあ？

A マジで釣れる。設備も充実しているから、ビギナーにはピッタリなのだ。

数年前、全国各地の海釣り公園を取材したことがある。そして、その結論は「海釣り公園はマジで釣れる」だ。

ある程度釣りを知っている人は、海釣り公園を軽視する傾向にあるのだが、並の防波堤よりも魚の数は明らかに多く、コンスタントに釣れることは動かしがたい事実なのである。海釣り公園の多くは、潮通しのいい場所にあつて、人工漁礁が至るところに沈められているから、それも当然といえば当然だろう。しかも、毎日のように釣り人たちのエサが入られるのだから、これで魚が集まらないワケないのだ。

釣れる魚種もアジやイワシなどの小



内湾にある魚影の濃い港が狙い目だ！

湾内にある比較的規模の大きな港なら、多少の風が吹いても安心して釣りができる。しかも、回遊魚から根魚まで幅広いターゲットが狙える釣り場だったら申し分なしだ。ただし、どんな湾奥にある堤防でも、風やうねりが強いときには波をかぶることは珍しくない。そんな日は、絶対に竿を出さないようにしましょう

釣りが上達する最大の秘訣は、魚を釣ることなのだ

どんなベテランでも、釣れないより釣れたほうが楽しいに決まっている。そしてこの「釣る」ということが技術の上達に一番役立ってくれるのだ。最初は簡単に釣れる場所で、比較的魚影の濃いターゲットたちと遊んでみることをオススメする



実際に釣り場に出かけてみれば、きっと、同じようなビギナーたちが、悪戦苦闘しつつも釣りを楽しんでるはずだ。最初はポイントの選択にはこだわらず、伸び伸びと竿を振る空いている場所に釣り座をキープして、防波堤釣りデビューを存分に楽しもう。

実際に釣り場に出かけてみれば、き

私が釣りの入門者を連れていくときに、釣り場の選択で重視していることは、①足場がよくて突然の大波の心配がないこと、②魚種は何でもいいから飽きない程度に釣れる、の2点だ。

安全性でいえば、外洋に面した堤防

ではなく、湾内にある比較的規模が大

きい港や岸壁などが安心できる。ある

程度の広さの堤防なら、隣の人のオ

マツリの心配も少なくなるはずだ。そ

ういった場所で、魚影が濃いポイント

というのは、間違いなく人気釣り場

になっているはずなので、釣り場のガイ

ド本や雑誌、インターネットなどで簡

単に調べられるだろう。

実際に釣り場に出かけてみれば、き

っと、同じようなビギナーたちが、悪

戦苦闘しつつも釣りを楽しんでるはず

だ。最初はポイントの選択にはこだわ

らず、伸び伸びと竿を振る空いて

いる場所に釣り座をキープして、防波

堤釣りデビューを存分に楽しもう。

Q5

ズバリ、初心者には
どんな釣り場がオススメですか？

A 安全性が高くて、サイズよりも数釣りが楽しめる釣り場ですね。

私が釣りの入門者を連れていくとき

に、釣り場の選択で重視していること

は、①足場がよくて突然の大波の心配

がないこと、②魚種は何でもいいから

飽きない程度に釣れる、の2点だ。

安全性でいえば、外洋に面した堤防

ではなく、湾内にある比較的規模が大

きい港や岸壁などが安心できる。ある

程度の広さの堤防なら、隣の人のオ

マツリの心配も少なくなるはずだ。そ

ういった場所で、魚影が濃いポイント

というのは、間違いなく人気釣り場

になっているはずなので、釣り場のガイ

ド本や雑誌、インターネットなどで簡

単に調べられるだろう。

実際に釣り場に出かけてみれば、き

っと、同じようなビギナーたちが、悪

戦苦闘しつつも釣りを楽しんでるはず

だ。最初はポイントの選択にはこだわ

らず、伸び伸びと竿を振る空いて

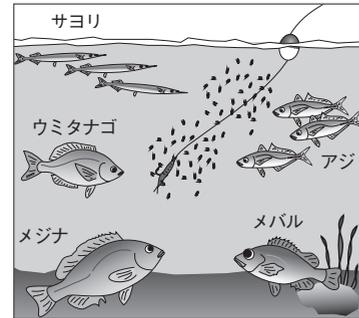
いる場所に釣り座をキープして、防波

堤釣りデビューを存分に楽しもう。

サビキ釣りははじめ、防波堤ではだれもがすぐに楽しめる釣り方が多い。本書を読破すれば、一年後にはあなたもベテランになれるかも!?

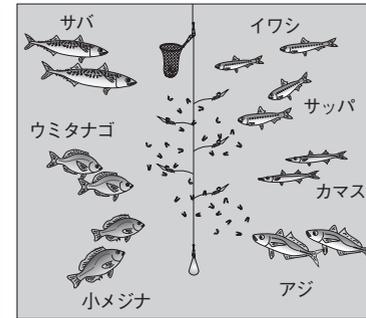


【防波堤での主な釣り方】



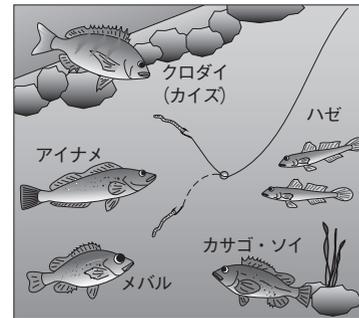
ウキ釣り

ウキ仕掛けを使ったポピュラーな釣り方で、ビギナーからベテランまで楽しめる。足場の低い場所では固定仕掛け、足場が高い堤防や深場では遊動仕掛けを使う (→Q 131)



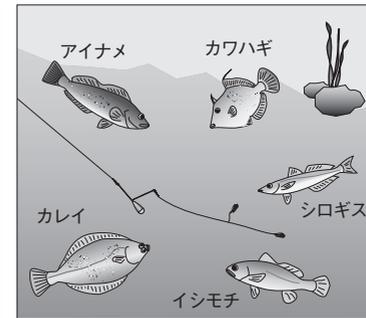
サビキ釣り

アミエビに似たサビキバリを使った仕掛けで釣る防波堤での超人気メソッド。だれでも気軽にチャレンジできて、しかも、釣れる魚種が豊富なのがウレシイ (→Q 123)



探り釣り

ラインにオモリとハリだけを付けただけのシンプル仕掛けで、魚の居場所をダイレクトに探っていく釣り方。フカセ釣り、穴釣り、前打ち、などのレパートリーがある (→Q 138)



投げ釣り

大きめのオモリを使った仕掛けで海底を釣る方法。防波堤なら、ほんの数10mキャストするだけの「チョイ投げ」でも、十分に釣果を期待できるのだ (→Q 127)

性を巧みに利用した捕獲システムである。当然、狙う魚によって最適な釣り方や仕掛けが変わってくるのだ。これは、地域や個人によってさらに多様な釣り方が考案され、それぞれ無数の仕掛けが存在しているのだが、防波堤では基本的に上の4パターンの釣り方がポピュラーになっている。

たとえば、シロギスやカレイは砂底でイソメ類を捕食している魚なので、イソメをハリ付けした仕掛けをオモリで海底に沈める釣り方が理想となる。また、アジやイワシなどは中層を回遊しながら、アミなどの動物性プランクトンを食べている。よって、釣り方としてはアミコマセを撒きながら魚の群れを誘き寄せ、アミに似せた擬餌、ハリを食わせるのが理に適っている。

このように、釣りというのは魚の習性を巧みに利用した捕獲システムである。当然、狙う魚によって最適な釣り方や仕掛けが変わってくるのだ。これは、地域や個人によってさらに多様な釣り方が考案され、それぞれ無数の仕掛けが存在しているのだが、防波堤では基本的に上の4パターンの釣り方がポピュラーになっている。

ターゲットによって、これらを上手、ビギナーも卒業である。

Q7

狙いのターゲットによって、釣り方も変わるみたいですね……

A 狙う魚種によって、最適の釣り方がある。その基本は4パターンだ。

【低予算でそろえる防波堤釣りのタックル一式】

リール／まずは小型のスピニングリールを入手しよう。サイズ的には、3号ナイロンラインが100m巻ける小型のものを選ぶこと。写真のリールはシマノ・アベルト2000XT。格安なのにSHIP搭載で回転性能も悪くないのだ



万能竿／リールがセットできるので、これだけでたいがいの釣りを楽しめる。長さは2.5～3mのものがオススメ

溪流竿／長さ4.5mのものが使いやすい。ズームタイプなら場所に合わせて長さを変えることができるので便利だ



水汲みバケツ&コマセバケツ／これがあるとないとは、釣りの快適さが全然違ってくる。バーゲン品でもいいので入手しておこう



エサ箱、メゴチバサミ、ラインカッター／どんな釣りをするにもこれらの小物は必須

クーラーボックス／魚を持ち帰るなら、これはやっぱり必要。防波堤では12%クラスで十分



このほか、コマセバケツや水汲みバケツ、エサ箱、ラインカッター、メゴチばさみ、そして市販の仕掛け類を用意すれば、とりあえず釣りは楽しめる。予算に余裕があれば、釣った魚を持ち帰るためのクーラーボックスも、ぜひ、購入しておきたい。

初心者にとっては、タックル選びもわからないことばかりかも知れない。そこで、まずは必要最小限のタックルで始めてみるのもひとつの考え方だ。ここでは、ビギナーがウキ釣りやサビキ釣りを楽しむことを想定して、ハイコストパフォーマンスで汎用性のあるタックルを選んでみよう。

まず、ロッドは長さ4.5mの溪流竿と長さ2.7mの万能竿をチョイス。この2本は、チョイ投げやフカセ釣りにも活用できる最強コンビだ。リールは小型スピニング・リール。2〜3号のナイロンラインを100〜150mほど巻いておけばOKだ。

Q9 ひとりあえず、1〜2万円ぐらいで、ひと通りのタックルを準備したい！

A まず最初は、汎用性と実用性を兼ね備えたタックルを選んでみよう！



ウキ釣りなら、だれでも簡単に楽しめるぞ！

釣りの基本といえば、やっぱり「ウキ釣り」。魚がエサをくわえたときのアタリが目で確認できるので、ビギナーにとってはわかりやすく楽しめる釣り方なのだ。サビキ釣りも人気だが、慣れないうちはライントラブルしやすいし、やっぱりホンモノのエサにはかなわない。ターゲットを選ばない寛容さも、ウキ釣りならではの大きな魅力なのだ



サビキ釣りとチョイ投げでグランドスラム達成も！

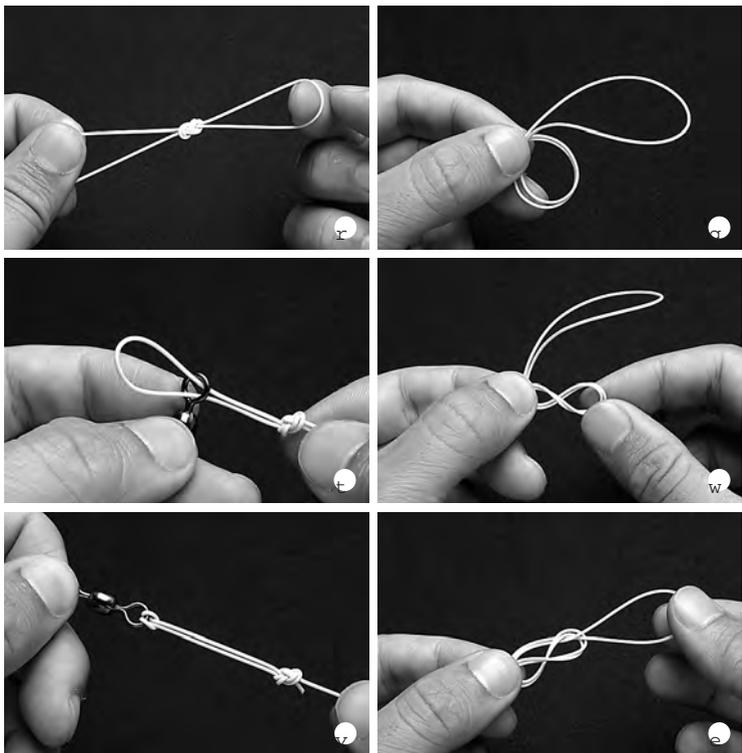
防波堤で人気のシロギスやアイナメなどを気軽に狙いたいなら「チョイ投げ」も楽しい。さらに、防波堤釣りの定番メソッドである「サビキ釣り」もマスターすれば、防波堤で釣れるすべての魚種を狙うことも可能になってくるのだ

釣りは、玉ウキを使ったシンプルなお「ウキ釣り」が一番のオススメ。仕掛けの作り方については後述するが（→Q52）、これは小学生でも作れるほど簡単。竿は長さ4〜4.5mぐらいの溪流竿が使いやすいだろう。エサは小粒のオキアミかアオイソメをハリ掛けする。ウキ下は2m前後で、これはどの釣り場でもあんまり変わらない。これでアミコマセをちびちび効かせながら釣れば、夕飯のオカズ分ぐらいは楽勝でキープできるはずだ。

Q8 「二番簡単な釣り方」を教えてください！

A 基本はやっぱり「ウキ釣り」ですね。釣り方も、超カンタンですよ！

防波堤釣りで、必ず魚をゲットしたいなら、まずは、五目釣りに徹するのがセオリーだ。ヘタにターゲットを絞るとオデコ（一匹も釣れないこと）になりかねない。具体的には、アジや小メジナ、メバル、ウミタナゴなどの小物狙いが楽しい。小物といっても、体長が20cmぐらいのアジやメジナは結構な引きを楽しませてくれるから、なかなかバカにはできないのだ。



一番簡単で役立つ「8の字チチワ結び」の方法

q まず、ラインの先端を10cmほどふたつ折りにして、途中に小さなループを作る。w このループを2回（3回でもよい）ねじって、e その中に折り返し部分をくぐらせる。r 結び目を湿らせてから、ゆっくりと引き締める。このとき、ラインが均一に締まるようにしていねいに締めるのがコツだ。t サルカンを付けるときは、サルカンの輪に折り返し部分を通して、y さらに、サルカンを折り返し部分にくぐらせてラインを引っ張るだけ。これで、小難しい結び方と同等以上の結節強度を期待できるのだ。この結び方は、ラインにオモリを直結したり、リリアンと接続するときなどにも応用できるので、ぜひ、マスターしておこう！

ピギナーにとって、仕掛け作りの最大の難関はラインの「結び」。できれば、簡単に強くてオールマイティに使える結びがあればいいのだが……。

じつは、これがあるのである。私自身もよく活用している「8の字チチワ結び」がそれだ。とにかく初めての人でも簡単に結べるし、強度的にもベテランが愛用しているユニゾットなどと比較してみても、まったく遜色がない。一見、素人っぽい結び方だが、仕掛け作りではこれだけ覚えておけば、サルカンなどの結びもバッチリなのだ。

ところで、ラインを結ぶときに覚えておきたい秘訣が2つある。まず、結び目を締めるときに必ずツバなどでラインを湿らせること。これは、ラインの摩擦熱を防いで劣化を防止するため。そして、端イトをきっちり締めて付けることだ。これは、使用中の結びの緩みを防ぐため。これで、結びのトラブルは激減するはずだ。

Q11 ラインの「結び方」をひとつだけ覚えてみるとしたら、何がいい？

A 「8の字チチワ結び」が最強、かつ、超簡単。応用範囲も広いのだ！

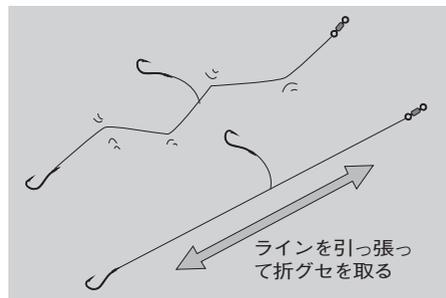


市販仕掛けは、意外とバカにできないぞ！

いまどきの市販仕掛けは、ヘタに自分で作るよりも安上がりで、しかも、信頼できるものが増えている。また、地元御用達の仕掛けを発見するという密かな楽しみもあるのだ。ピギナーや時間のない人にとっては、利用価値大だと思う。ただし、いつまでも市販品に頼ってばかりだと、釣りの楽しみにも限界があることも覚えておいてほしい

市販仕掛けを使うときの注意点

市販仕掛けの多くは、厚紙に直接巻いているので、どうしてもラインに折りグセがつきやすい。使用前にラインを引っ張って折りグセを直しておこう。また、余分な端イトも必ずカットしておくこと。市販仕掛けを活用するには、こうしたチューニングが不可欠なのだ



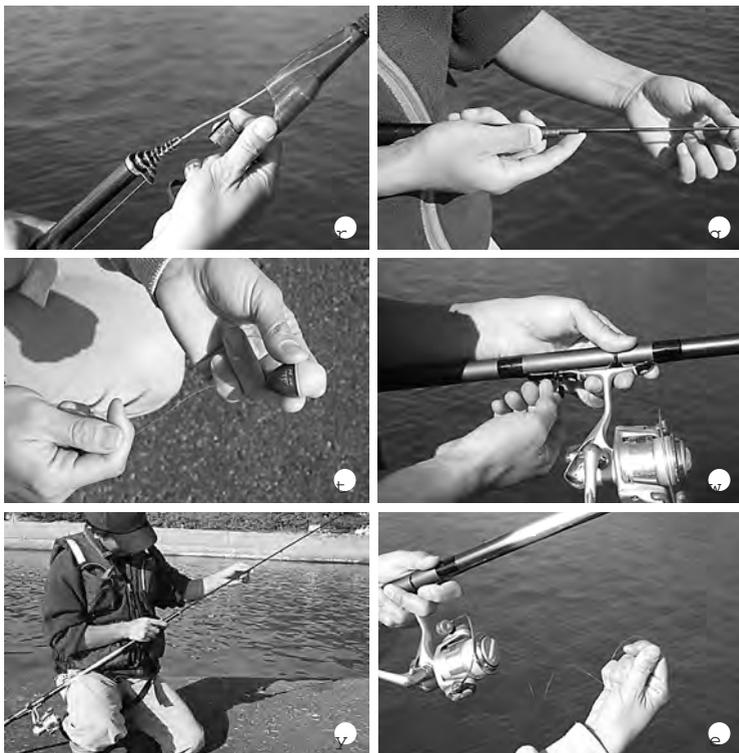
なお、市販仕掛けをパッケージから出した後、仕掛けの両端を引っ張ってラインの折りグセを直しておくことを忘れずに。また、結び目から余分な端イトが出ていたら、これもカットしておくこと。無用なトラブルを防げる。こうした小ワザ的な配慮が、市販仕掛けをフルに活用するためのコツなのだ。

Q10 釣りの「仕掛け」を自分で作るの、ちょっと面倒そうですか？

A 最初のうちは、市販の仕掛けを活用しよう。使い勝手も悪くないのだ。

これはあらゆる釣りに共通していることだが、釣り場やエサ選びと同じくらいに重要なのが「仕掛け」である。実際、仕掛けの違いによって釣果に大きな差が出てしまうことは多いのだ。これは、気軽に楽しめる防波堤釣りでも例外ではない。

といっても、ピギナーに最初から完璧な仕掛けを作れといっても現実的ではない。ここは、深く考えずに市販の完成品の仕掛けを活用することをオススメする。何とんでも手間がかからず、しかも、意外と釣れるのだから堂々と使っていればいいのである。



タックルの基本的なセッティング方法

q ノベ竿は穂先側から引き出していくのが基本だ。手元側から伸ばしていくと竿をバキリとやりかねない。納めるときは手元側から引っ込めていけばよい。w 磯竿や投げ竿などは竿を伸ばす前にリールをセットする。これは、リールシートにリールフットを挟んでストッパーで留めてやるだけだ。e リールのペイルを返してから（これを忘れるとラインが巻き取れなくなるのだ）、r ラインをガイドに通す。なお、ルアー竿のような継ぎ竿の場合は、先に竿を継いでからリールをセットしてラインを通す。t ラインの先端に仕掛けをセット。y ガイドの向きをそろえながら竿を伸ばし、リールのペイルを戻して準備完了だ

ひと通りのタックルを買ってそろえたら、ついでにそのセッティング方法も家で練習しておけば、釣り場に出掛けたときにまごつかないで済む。

まず、竿は「先端から伸ばして、手元から納める」のが基本だ。これを逆にやると穂先を破損しかねないので注意したい。竿をしまうときには、タオルで砂や水分を拭き取りながら納めていくことも大切だ。これを怠ると、竿の内部まで砂や海水が浸入して、竿の寿命を縮めてしまうことになる。

また、釣りの最中に堤防上にタックルを置くこともあると思うが、これもできるだけいいに扱おう。ロッドは急激な衝撃にも弱いから、コンクリートで擦れたような小さな傷でも、破損の原因になることがあるからだ。

なお、現在のロッドの多くは導電性の高いカーボン素材で作られているので、堤防の上に電線が走っている場所では絶対に振り回さないように！

Q13 竿やリールの「セッティング」って、どうやればいいのか？

A 釣りを始めるときの超基本。とくに、ロッドの取り扱いには注意しよう。

防波堤釣りではイソメとオキアミを用意しよう！

右がイソメ。イソメにも何種類があるが、これは一番ポピュラーな「アオイソメ」。クネクネと活きがよくてハリ掛けしにくいのが難点だが、魚の食いは抜群だ。左のオキアミは、ウキ釣りやフカセ釣り、カゴ釣りなどで使用する。エサ付けも簡単なので、初心者にも扱いやすい



絶対覚えておきたい、イソメの基本的な装餌方法

q まず、ハリを利き手の指で、イソメを反対の指先でつまむ。つまみにくい場合は、滑り止め用に市販の石粉をまぶすとよい。w イソメの頭の横からハリ先を刺し込む。e イソメにハリを刺し通したら、イソメの全長が3~5cmになるようにツメでカットして完成。r 口の大きな魚を狙う場合は、ハリ先をイソメの頭にチョン掛けするでもOK。これなら簡単だ



防波堤釣りでは、じつにさまざまな種類のエサが使われるが、なかでも一番ポピュラーなのは「イソメ」と「オキアミ」である。どちらも、これで釣れない魚はいないほどの万能エサで、初めての釣り場でも、この2種類のエサを1パックずつ持参すれば、たいがい何とかなるものだ。

実際の釣りでは、これらのエサをハリに付けて投入するわけだが、このエサ付けにも何種類かの方法がある。一番基本的なのは上の方法だが、Q86でも具体的に紹介しているので参考にしてみたい。イソメのグニョグニョとした手触りが苦手な人もいると思うが、釣りにハマれば女の子でも平気でつまめるようになるから大丈夫だ。

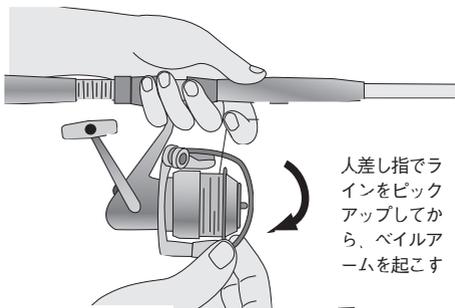
それでもどうしてもダメというなら、オキアミをメインに使えばいい。ウキ釣りやフカセ釣りではもちろん、穴釣りやチョイ投げでもオキアミは大活躍してくれるのだ。

Q12 「エサ」は何を使うの？ハリに付ける方法も教えて！

A 「イソメ」と「オキアミ」が万能。入手しやすく魚の食いも抜群なのだ。

【スピニング・リールの使い方】

q まず、ロッドを握った手の人差し指にラインを引っ掛け（ローラーの位置が最上部にくる状態にしておく）とやりやすい、反対側の手でベイルアームを起こす。この状態でラインはフリーになっているわけだ



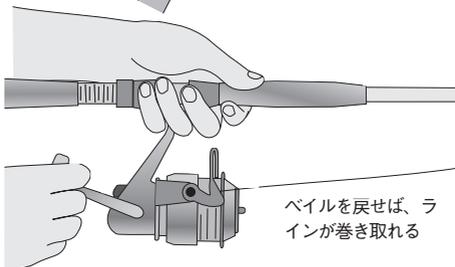
人差し指でラインをピックアップしてから、ベイルアームを起こす

w 仕掛けを投入するときには、キャストの瞬間に人差し指を離すとラインが放出していく仕組みだ。キャスト終了時に余分のライン放出をコントロールするテクニック=サミングも、いずれマスターしたい（→Q184）



キャスト時に人差し指を離せば、ラインが放出されていく

e 再びベイルを返せば、ラインの巻き取りが可能になる。ベイルを戻すときはハンドルを回すだけでもいいが、私は手で直接ベイルアームを戻している。これだと手の平でサミングをしたときに、スムーズにベイルを返す動作ができるからだ



ベイルを戻せば、ラインが巻き取れる

よく、竿の構え方や後ろ姿で、その人の釣りの技量がわかると言われる。実際、家族連れやグループでのんびり釣りを楽しんでいる人の中でも、釣り慣れた人はすぐにわかるものだ。何度も釣行を重ねていけば、この「釣り姿」は自然と体得できるはずなので、まずは、基本を押さえておこう。

竿の持ち方で大切な要点は3つ。
①まず、手首やヒジなどをうまく使って竿の重量を分散させること。どんなに軽い竿でも、指の力だけで一日持っているとなると確実に疲れてくるのだ。リラックスした状態で持っていれば、突然のアタリにも機敏に反応できる。
②竿先は風上側、潮上側に向けるのが基本。こうすることで、仕掛けやラインが流されにくくなるわけだ。
③風の強いときは、竿先を下げ気味にしてやるとよい。これも、ラインへの風の影響を最小限に抑えるための基本的なテクニックだ。

スピニング・リールには特有のパーツともいえるのが「ベイルアーム」で、これを起こすことによってスプールに巻かれたラインがフリーの状態になり、仕掛けを海中に落下させたりキャストできることになる。再び、ラインを巻くときは、ベイルを元の状態に戻せばOKだ。

スピニング・リールでは、ハンドルを回すとローターが回転して、ラインがスプールに巻かれる仕組みになっている。このとき、スプール自体が前後することでラインが均一に巻かれるわけだ。さらに、ラインに一定以上の負荷が掛かると、スプールが逆転してイト切れを防ぐ仕組みにもなっている。

スピニング・リールについて説明しよう（各部の名称に関してはQ39を参照）。

スピニング・リールでは、ハンドルを回すとローターが回転して、ラインがスプールに巻かれる仕組みになっている。このとき、スプール自体が前後することでラインが均一に巻かれるわけだ。さらに、ラインに一定以上の負荷が掛かると、スプールが逆転してイト切れを防ぐ仕組みにもなっている。

Q15 初めて「リール」に触るんですけど、これって、どうやって使うの？

A ラインを自由に操れるスグレもの。構造は複雑だが使い方は簡単なのだ。



意外と知らなかった、正しい竿の構え方

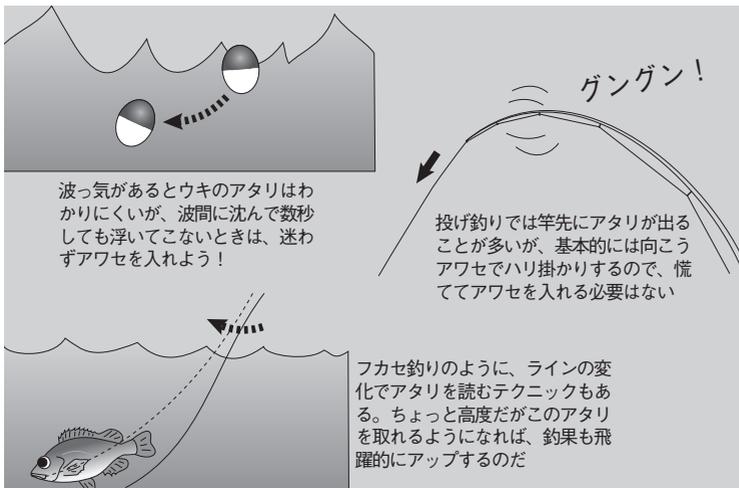
q ノベ竿の場合は、人差し指を竿の上に添えて握ると微妙な操作がしやすい。このとき、竿尻を手首の裏側にあてがってワキを締めると楽に持てる。w リール竿の場合は、中指と薬指（または、薬指と小指）でリールフットを挟んで握る。e 重量のある竿は、ワキで竿尻を支えるようにすると疲れにくい。子供や女性は、両手で竿を持ってもらいたいだろう。r ウキ釣りやフカセ釣りなどでは、竿先は下げ気味に構えるとアワセを入れやすく、疲れにくくもある。t 投げ釣りの場合はこのように竿を立てて構える人が多いが、y 実際には横に構えた方がアタリを取りやすい。風が強いときにも、このほうがラインがなびきにくいのだ

よく、竿の構え方や後ろ姿で、その人の釣りの技量がわかると言われる。実際、家族連れやグループでのんびり釣りを楽しんでいる人の中でも、釣り慣れた人はすぐにわかるものだ。何度も釣行を重ねていけば、この「釣り姿」は自然と体得できるはずなので、まずは、基本を押さえておこう。

竿の持ち方で大切な要点は3つ。
①まず、手首やヒジなどをうまく使って竿の重量を分散させること。どんなに軽い竿でも、指の力だけで一日持っているとなると確実に疲れてくるのだ。リラックスした状態で持っていれば、突然のアタリにも機敏に反応できる。
②竿先は風上側、潮上側に向けるのが基本。こうすることで、仕掛けやラインが流されにくくなるわけだ。
③風の強いときは、竿先を下げ気味にしてやるとよい。これも、ラインへの風の影響を最小限に抑えるための基本的なテクニックだ。

Q14 竿の「持ち方」にも、何か基本はあるのかな？

A タックルの重量を分散させる持ち方が理想。風向きや波高も考慮したい。



アタリのいろいろ

「魚が全然釣れない!」と嘆いているビギナーに限って、微妙なアタリを見逃していることが多い。私が隣で見ていると、10回中2〜3回のアタリがわかるかどうかなのだ。強風時や波っ気のあるときはアタリを判別しにくい、ウキやライン、竿先に何らかの変化を認めたら、これらはすべてアタリと考えて積極的にアワセていこう!

最初は、アワセを難しく考えないように!

「アワセ」というのは、アタリに対して確実に魚にハリ掛かりさせるテクニックだ。しかし、最初はアワセのタイミングがつかみにくいので、ここは難しく考えなくて、竿を立てるかリールを巻いてみよう。これだけでも、十分にアワセになるのだ



そこで、最初のうちは、ウキや竿先の動きが何かへんだと思ったら、とりあえず竿を立ててみるか、リール竿の場合はリールを巻いてみよう。空振りになることもあるが、これによって、だんだん本アタリが読めるようになって、釣りの上達にも繋がっていくのだ。

初めて釣りをする人にとって、魚信(「アタリ」)が伝わってきた瞬間は、じつにワクワクするものだ。ウキ釣りの場合はウキが一気に海中に引き込まれたり、投げ釣りでは竿を通して「ゴーン!」と強烈な引きが手元まで伝わってくることもある。

しかし、実際の釣りではこういった明確なアタリばかりでなく、「なんだかウキの動きがおかしいな」とか「竿先が曲がっているような気がする…」とかの微妙なアタリも多い。場合によっては、仕掛けを上げてみてはじめて魚が掛かっていたことに気づくこともあるくらいだ。

Q 17 何だかウキが動いてるみたい。これって「アタリ」なのかしら……

A ウキや竿先に何かの変化があったら、とりあえず、竿を立ててみよう!

【送り込み】仕掛けの投入では「送り込み」が基本になる。ハリスの下端をつまんでラインにテンションをかけてから、竿先を下げた状態からロッドを振り上げると同時にハリスを放してやる。リール竿の場合は、この瞬間にラインを放してやれば仕掛けが前方に飛んでいくのだ



【チョイ投げ】防波堤釣りで多用する「チョイ投げ」は、5分ほど練習すればだれでもできるようにになる。竿先からオモリまでのラインの長さを30cmとり、両手で竿を頭上に構えてからゆっくりと前方に振り出す。竿が垂直になったときにラインを放せば仕掛けが飛んでいくという仕組みだ

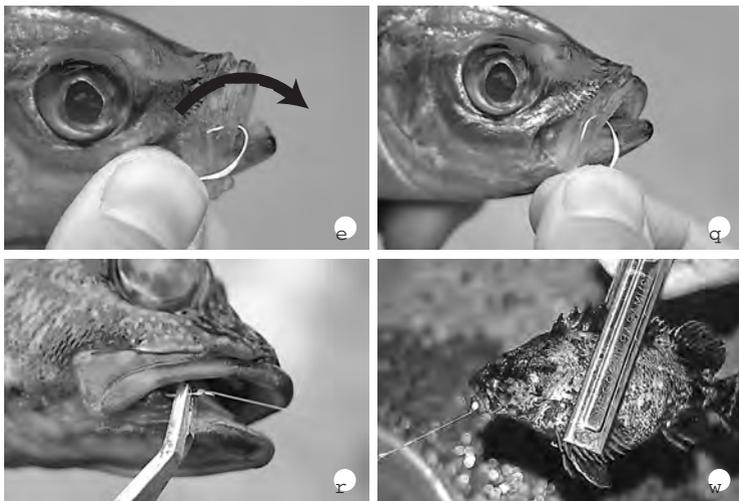


Q 16 仕掛けがちゃんと前に飛びません。正しい「投げ方」を教えてください!

A 竿の弾力を利用して、仕掛けを竿に乗せるイメージで投げてみよう。

防波堤ではビギナーが多いこともあって、仕掛けが思うように投げられないで悪戦苦闘している姿をよく見かける。風でも吹いてこようものなら、自分の背中を釣ってしまう人もいるほどだ。彼ら(彼女ら)の苦戦の原因は、何ととっても「力み過ぎ」。竿を思い切り振るばかりで、その力が全然仕掛けまで伝わっていないのである。

仕掛けを投げるとき最大の唯一のコツは、竿の弾力をフルに利用してやること。そのためには、竿をゆっくり大きく振って竿を十分に曲げてやればよい。こうすれば、腕力なんて全然必要ないのだ。とくに、ウキ釣りなどの軽い仕掛けを使う場合は、急激な竿の振り方ではコントロールも定まらない。これは投げ釣りやチョイ投げでも同様で、キャストの始動時にゆっくりと竿を起こしてやると、オモリの荷重が竿に乗りやすくなって、竿の反発力がより生きてくるのだ。

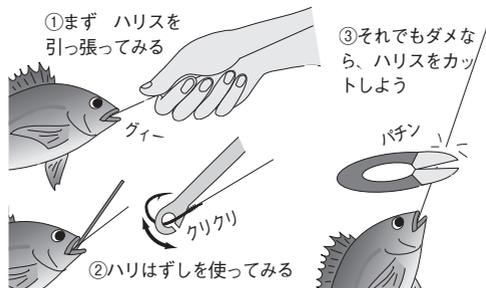


基本的なハリのはずし方

ハリが魚の口に掛かっている場合なら外すのは簡単。q魚をしっかり握ってハリをつまむ。w魚が握りにくい場合は、タオルやメゴチばさみを利用するとよい。eハリにはカエシがあるので、その反対方向に弧を描くようにハリをスライドさせれば外すことができる。eガツチリとハリ掛かりしている場合は、小型プライヤーを使うと簡単に外せるので便利だ

ハリを飲み込まれたときの対処方法

太ハリを使っていれば、少しぐらいハリを飲み込まれたぐらいならハリスを引っ張るだけで抜けることが多い。それでダメな場合や細ハリスを使っているときは「ハリはずし」を使ってみる。それでも外れないなら、ハリスごと切ってしまう



無事、魚を釣り上げたら、じっくりその魚を観察するのもいいだろう。とくに、初めての釣りで自分が釣り上げた魚を見るのは感激モノである。しかし、釣りはそれで終わったわけではなく、最後に魚の口からハリを外す作業が残っているのだ。

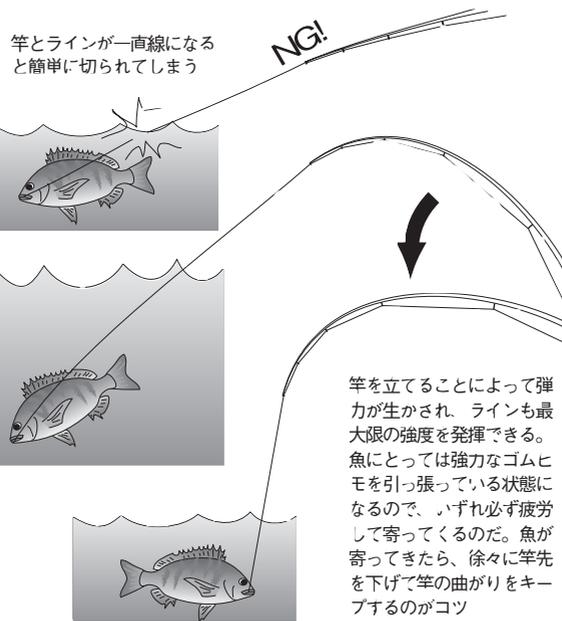
アフセのタイミングがうまくいった場合は、ハリも魚の口先に掛かることが多いので外すのは簡単だ。しかし、アフセが遅れてハリを飲み込まれてしまったりビギナーはちょっと難儀する。「ハリはずし」なる小道具を使う手もあるが、どうしてもうまく外れないならハリスごと切って、家で料理するときに注意してハリを除くのが簡単だ。

いずれにしても、ハリを外すときにはしっかりと魚を握ると作業しやすい。ヒレやエラが鋭い魚、そしてヌルネバ系の魚の場合は、タオルかメゴチバサミを利用してしっかりとホルドしてやる。

Q19 魚の口からハリを外すのって、どうやればいいの？

A 魚をしっかりつかんで、ハリのカエシと反対方向に引っ張ってみよう。

魚が掛かったら、まずは、竿を立てるのが基本だ！
魚どのやりとりで、一番覚えておきたいのは「絶対に無理しない」こと。ベテランになると、ちょっとした大物でもスムーズに誘導して取り込むことができるが、最初のうちは無理をするとハリスを切られるのがオチだ。釣り竿というのは、しっかりと立てているだけで魚を疲労させて、いずれは手前に寄せてしまう優れモノ。竿を信頼してゆっくりとファイティングしよう！



デカイのがハリ掛かりしたら、最後の詰めは玉網で！

小型魚なら竿を立てて一気にゴボウ抜きするのが基本だが、30cm以上の大物は玉網ですくい取るのが無難だ。強引なゴボウ抜きで、泣きを見ないようにしたい。ただし、カゴ釣りなどでは、40cm級のソウダガツオやイナダでも一気にゴボウ抜きすることが多い



うまくアフセが決まれば、グングン！という躍動感が手元に伝わってきて、ヤッター！となるわけだ。さて、このあとどうすればいいか？

引きが弱いようなら、そのまま竿をゆっくり立てていけば、勝手に魚が海面を割って手元に飛んでくるので、それをキャッチすればよい。しかし、ビギナーにとって難関なのは大物が掛かったとき。突然の強烈なファイティングで頭の中が真っ白にならないように、心構えだけはしっかりしておこう。

まず大切なのは、竿とラインが一直線にならないように、竿を立てて弾力を生かしてやること。竿が満月のようになっても、まずラインを切られることはない。魚の引きが弱まってリールが巻けるようになったら慎重に魚を寄せてこよう。最後は、誰かに玉網で魚をすくってもらえば万歳だ。もちろん、将来的には自分でタモ入れ（玉網ですくこと）できるようにしたい。

Q18 大物にラインを切られちゃった！魚を確実に取り込むコツは？

A 小物なら即抜き上げ。大物なら竿の弾力を利用して寄せてこよう！

【釣り場での心構え】



挨拶について

釣り場に入るときには、隣の釣り人に挨拶するのが基本。黙って近寄られるよりも、「今日は釣れますか?」とかの一言があれば、釣り人同士、打ち解けやすいものなのだ。強引な割り込みはもちろん、他人が釣っている前に仕掛けを投げたり流すこともやめよう



ゴミ対策

残念なことだが、防波堤には本当にゴミが多い。釣り人が残したと思われるエサ袋や釣り糸、弁当の空箱……。コマセで汚れた堤防も多く、釣り人のモラルを問われかねない。最近では堤防のゴミ拾いをして帰る釣り人を見かけるが、こんな人たちが増えることを願う



安全対策

突然の高波、横転・転落事故、キャスト時の事故、竿と電線の接触による感電、毒魚の扱い……。防波堤での危険を挙げていくとキリがないが、釣りだけに夢中になるのではなく、適宜、周囲の状況に気を配って的確な判断を下していくことが釣り人としての心得だ



防波堤の利用について

防波堤や漁港などの港湾施設は、行政や漁協が管理しているもので、釣り師はそこにお邪魔させてもらっているわけである。当然、迷惑駐車や漁網を踏んづけたりなどは御法度。一部の釣り人の非常識な行為のために、立ち入り禁止になった釣り場も少なくないのだ

釣りは、不特定多数の人々が一定のエリア内で楽しむ遊びである。当然、お互いが気持ちよく釣りを楽しむためにも、最低限のルールとマナーは身につけておくべきだ。また、海という自然が相手なだけに、それなりの安全管理も忘れてはいけない。

ところが、実際の釣り場では、ゴミが散乱していたり、コマセや外道魚が堤防上に放置されているのは日常茶飯事。釣り師同士がポイントの取り合いで言い争いをしていたり、投げ釣りのオッサンがジェットテンピンを他人にかすりながらぶっ飛ばしていることすらある。こうなると、楽しいはずの釣りもストレスが溜まりまくりだ。

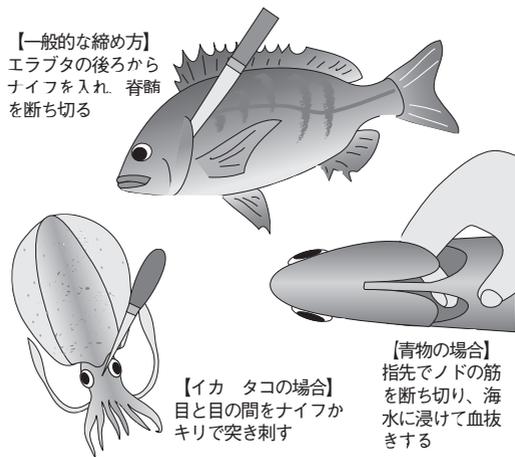
いずれも、常識的な行動と譲り合いの精神があれば解決できるはずだが、目先の釣果に囚われている人には難しいことのように思う。せめて本書を読まれた方々は、良識を持って一緒に釣りを楽しんでいきましょう。

Q21 釣りを楽しくむうえでのルールや注意点があつたら教えてください

A 常識的に考えて行動すればOK。ただし、とくに安全面には気を配ろう!

活き締めの方法

活き締めで一般的なのはエラブタの後ろにナイフを入れて血を抜いてしまう方法。クロダイやスズキ、カレイ、カワハギなどの白身系の魚では、これベストの方法だ。サバやソウダガツオなどの青物は、ノドの筋を指で断ち切るのが簡単。イカやタコは眉間に急所があるので、そこにナイフを入れるだけでいい



【一般的な締め方】
エラブタの後ろからナイフを入れ、脊髄を断ち切る

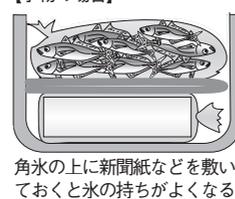
【イカ タコの場合】
目と目の間をナイフがキリで突き刺す

【青物の場合】
指先でノドの筋を断ち切り、海水に浸けて血抜きする

クーラーボックス活用術

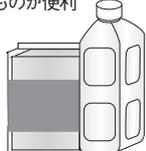
活き締めした魚は、冷えたクーラーボックスで持ち帰るのが鉄則だ。アジやイワシ、シロギスなどの小魚はそのまま氷締めにしてしまえばよい。メゴチやカレイなどの粘液系の魚は、ビニール袋に入れてからクーラーに投入すれば、ほかの魚がヌルネバにならず、味を損なうこともないだろう。青物系は身が傷みやすいので、海水に大量の水を入れて水氷に入れるのがベターだ

【小物の場合】

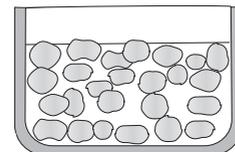


角氷の上に新聞紙などを敷いておくとも氷の持ちがよくなる

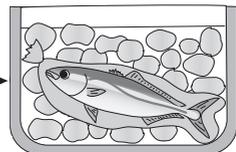
溶けても水が流れないコンビ二水やペットボトルを凍らせたものが便利



【高温時や大物の場合】



海水にタップリの氷を入れて「水氷」をつくる



魚は直接ではなく、ビニール袋に入れて冷やすのがコツ

Q20 釣った魚をおいしく食べるには、どうやってキープするの?

A 速攻で活き締めして、鮮度を保ってやれば、最高の味を楽しめるのだ。

防波堤釣りでは、釣った魚を料理しておいしく食べることも大きな楽しみのひとつだ。どうせなら、最高の味を楽しんでみたい。

釣った魚をおいしく食べるコツは、何といっても「鮮度」をキープして持ち帰ることに尽きる。具体的には、釣ったらすぐに「活き締め」にしてやるのがベストだ。初めて釣った魚なら、しみじみ眺めてみるのも感慨ひとしおだが、延々とバケツの海水で生かしておくと、とくに夏の炎天下では海水が生温くなってすぐに魚の鮮度が落ちてしまう。即締めしてクーラーで冷やしてやるのが、その魚をおいしく頂くための正しい作法なのだ。

なお、クロダイやフッコなどをストリンガーで生かしているベテランも多いが、私は絶対にこれをしていない。海水で泳がしておくとも身の臭みが抜けることもいわれるが、同時に魚に与えるストレスで鮮度も落ちてしまうからだ。

釣りは、不特定多数の人々が一定のエリア内で楽しむ遊びである。当然、お互いが気持ちよく釣りを楽しむためにも、最低限のルールとマナーは身につけておくべきだ。また、海という自然が相手なだけに、それなりの安全管理も忘れてはいけない。

ところが、実際の釣り場では、ゴミが散乱していたり、コマセや外道魚が堤防上に放置されているのは日常茶飯事。釣り師同士がポイントの取り合いで言い争いをしていたり、投げ釣りのオッサンがジェットテンピンを他人にかすりながらぶっ飛ばしていることすらある。こうなると、楽しいはずの釣りもストレスが溜まりまくりだ。

いずれも、常識的な行動と譲り合いの精神があれば解決できるはずだが、目先の釣果に囚われている人には難しいことのように思う。せめて本書を読まれた方々は、良識を持って一緒に釣りを楽しんでいきましょう。

知ってお得な **ニQ&A**

Q 22 釣りをしているときの食事はどうすればいい？

A 私自身は、釣りをしているときにはあんまり食事をしないのだが、片手で食べられるおにぎりやサンドイッチがあれば、小腹が空いたときに重宝する。また、寒いときには温かい食事がウレシイもの。コンビニの鍋焼きうどん（ラーメン）などは、小型のコンロで煮るだけで作れるのでもって便利なのだ。



家族や仲間同士ならば「ベキュー」に興じるのも◎

Q 23 1回の釣行費の目安はいくらぐらい？

A 釣りに必要な経費としては、交通費やエサの購入費、食事代などがメインとなる。交通費は出かける場所によって大きな差がつくが、エサ代はコマセを含めて1,500円も見ておけばいいだろう。

Q 24 子供が釣りに飽きてしまったみたいだが……

A いつまでも釣れないと飽きてくるのはオトナも同じ。最初は、「魚の多い場所」で「だれでも釣りやすい魚」を狙うのが、釣りを楽しむコツなのだ。それでも釣れないときは、磯遊びや行楽地巡りなどにチェンジするのも一興かも。

Q 25 隣の人とオマツリしてしまった！ こんなときどうする？

A 混雑する防波堤では、隣同士の仕掛けが絡まる「オマツリ」は避けて通れないものがある。こんなときこそ、「すみませーん！」のひと言が重要だ。数分で直せるオマツリなら落ち着いてラインをほどけばいいし、それが無理そうなら自分の

仕掛けを切って速やかに対処するのがスマートなやり方だろう。

Q 26 防波堤や港にも、駐車場やトイレはあるのかしら？

A 以前は、まったく何の施設もない港も多かったが、最近は広い駐車場や清潔なトイレが整備された釣り場も増えてきている。完璧な設備を望むなら、海釣り公園に出かけるのが確実だ。

Q 27 一緒に釣りに行ってくれる人がいない！

A 単独で釣りを楽しんでいる人も多いが、どうしても仲間が欲しいなら、会社の同僚を誘ったり、釣りのサークルに入る方法もある。また、最近はインターネットで知り合った人同士が、釣り場で集合して楽しむスタイルも増えているようだ。

Q 28 釣りの保険があるって聞きましたけど……

A 掛け金が安くて十分な保証で人気の釣り保険だが、最近はほとんどの保険会社がこれを受け付けなくなった。竿などの損害が多くて採算が合わないからだそうだ。ただし、傷害保険に特約をつけて似たような保険を作ることは可能とか。

Q 29 海には「釣り堀」みたいなものはないですか？

A 全国的に増えつつある。入場料金は数千円から一万円以上とかなり高めだが、マダイやブリ、シマアジといった高級魚が釣れるとあって、週末は家族連れなどで結構賑わっているようだ。



釣り堀なら、確実にお土産をゲットできるのだ